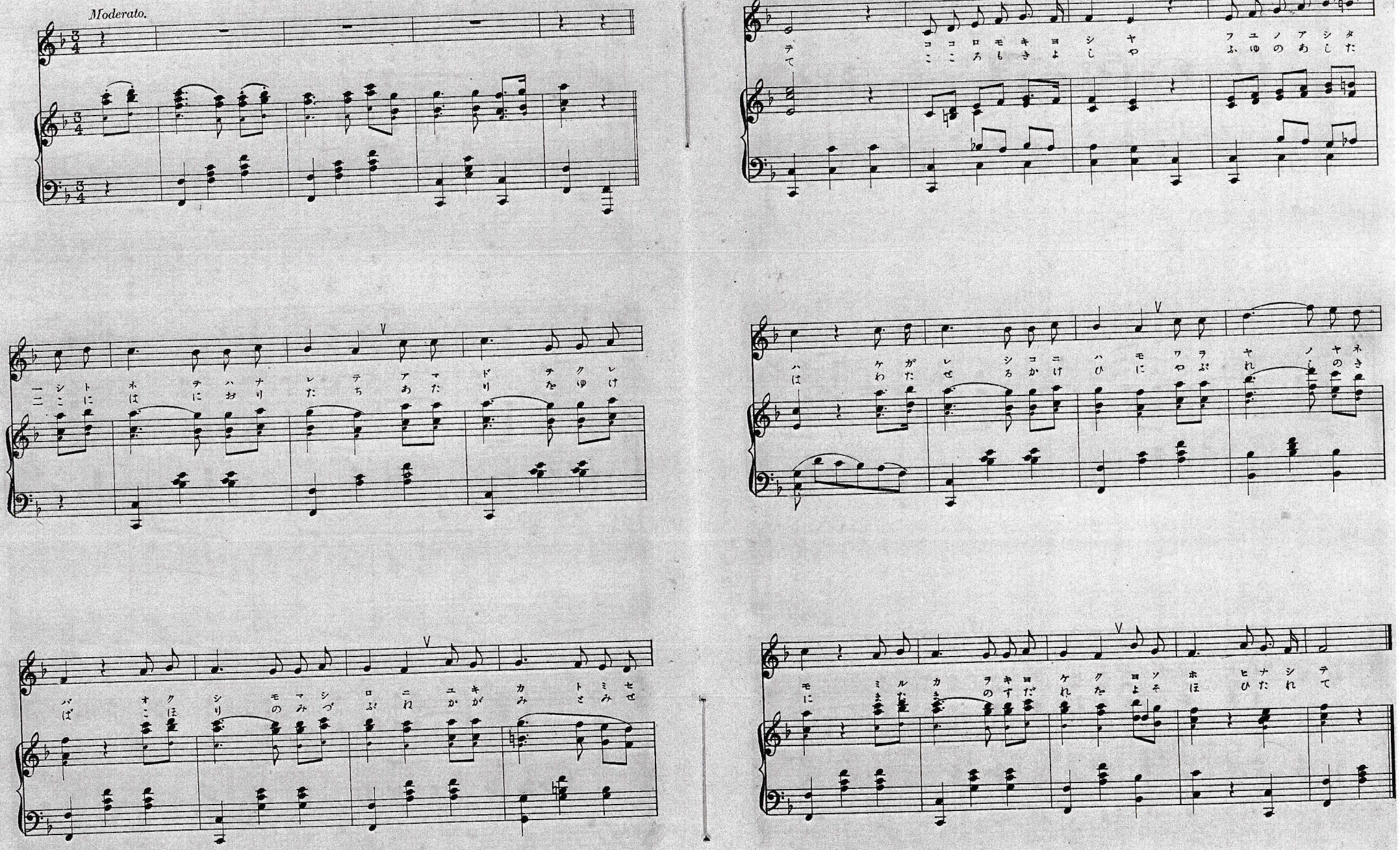
最　　新

唱歌教科書

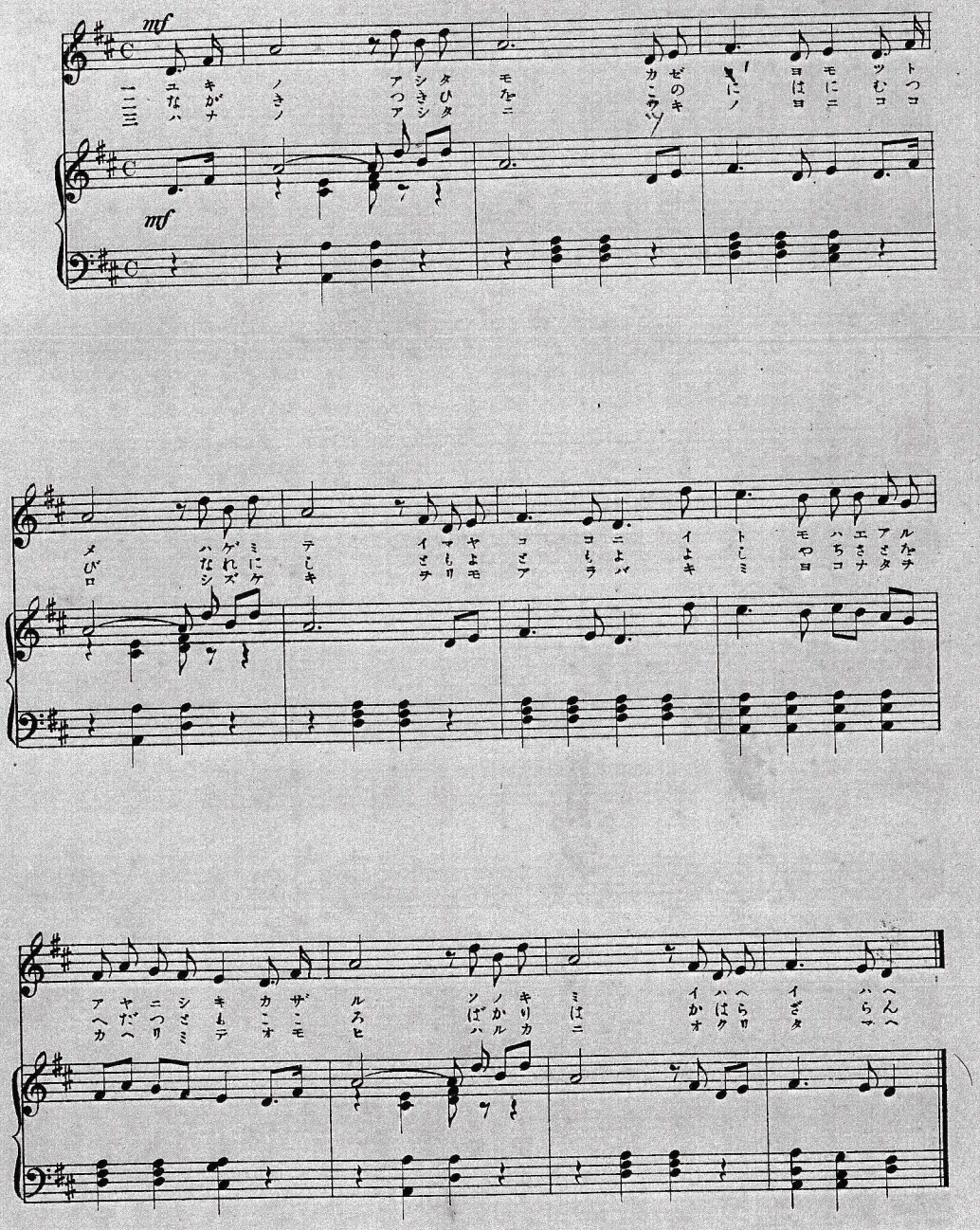
（伴奏附）

冬のあした

Moderato.



卒業の友を送る



昭和貳年三月二十日印刷
昭和貳年四月一日發行

定價金壹圓五十錢

編纂者　若狹萬次郎

印刷者　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中壽一

印刷所　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中金龍堂

發行所　大阪市西區北堀江通一丁目　日本樂器製造株式會社　大阪支店

代表者　刀原四郎

不許復製

検印

○樂しげなる農夫

一、親子兄弟姉妹寄りて。
しなへる小稻を刈りぞ急げる
見よや雀も小田に群れつつ
豐けき秋を喜びをどる
嬉し農夫樂し農夫

二、つゞく日和に笑顔を見せて
干したる小稻を扱ぎぞ急げる
聞けや百舌鳥森に群れつゝ
豐けき秋をよろこびうたふ
嬉し農夫樂し農夫

○里の秋　八波則吉

秋風　さら　さら　さら
門田の　稻葉を吹く
鳴るよ　鳴子がけたたましく
案山子も　驚き顏。

○村の祭

一、黃金の穗波森によせて
浮き立つ村の祭日
里にひびく笛や太鼓
ぞめきぞめく賑ひ。

二、とどろく太鼓浦曲わたり
ふきなす笛のゆかしや
けふの祭うたへ祝へ
こがねみのるよき日を

三、野山にどよむ宮の相撲
花火の音もいさまし
けふの祭うたへ祝へ
こがねみのるよき日を。

○秋の古城　山崎紫泉

一、松の梢を　訪ふ風に
昔を偲ぶ荒城の
草むらがくれ　蟲すだく
チンチロリリリチンチロリ。

二、露と消えにし壯夫の
み靈に捧げし百千草
優しき眞操の花蔭に
チンチロリリリチンチロリ

○深山の紅葉　犬童球溪

一、時雨に露に霧に風に
立田の姫や染めて織りし
錦か綾か山のもみぢ
旭に清く色ぞ映ゆる。

二、誰れにか着すと、夜ごと〳〵
立田の姫は染めて織りし
濃染の衣の山のもみぢ
夕日赤く色ぞ映ゆる。
旭に夕日に懸けて酒す
深山のもみぢ見れど飽かず。

○秋のかなしみ

一、野山は　時雨て　ましか　悲しく
秋野の　白露　あはれ　まされり

二、さびしき　さびしき　小夜の　雁が音
思ひは　消ぬべく　吾は　思ほゆ。

○獵夫の歌　犬童球溪

一、分け行く山路、攀づる岩根
猿のごとき足の運び
ララ……
高き梢に鳥は歌ふ

二、梢の鳥よ安く歌へ
望むは谷に住める獸類
ララ……
勇める犬の叫び聞ゆ。

三、勇める犬よ高く叫べ
手に執る銃の先きもふるふ
ララ……
出づるは何か來るは何か

○冬のあした

一、しとねを離れて雨戸を繰れば
おく霜眞白に雪かと見せて
心も清爽しや冬の朝は
汚れし小庭も藁屋の屋根も
見るから清けく化粧なして。

二、小庭におりたちあたりを行けば
氷の水船鏡と見せて
心も清爽しや冬の朝は
亘せる筧に破れし軒に
眞玉の簾をよそほひ懸けて

○友を送る　八波則吉

一、行くか　友よ　汝ひとり
我等を置きて　遙けき旅へ
行くか　友よ　汝ひとり

二、行けや　友よ　いざさらば
汝が行く先に　幸こそ待てれ
行けや　友よ　いざさらば

○歲暮

一、あはれことしも夢とくらし
をしむ日數と早やもなりぬ。

二、過ぎしひと年かへり見れば
成しし事ごとあともなくて。

三、朽ちし軒ばに嵐すさび
老ひの頭に雪ぞつもる。

○卒業の友を送る

一、雪のあしたも風の夜も
つとめはげみて今やこゝに
いとも光榮ある綾錦
かざる其の君祝へ祝へ。

二、長き月日を此の庭に
睦びなれにし友よ〳〵
よしや千里を隔つとも
心ばかりは變らざらん。

三、花の朝に月の夜に
心しづけき折もあらば
君よ此方をかへり見て
思ひ遙かに運び給まへ。